

3. リンドウの定植1年目の生育促進を目的としたジベレリン処理（情報）			
[要約] リンドウの春定植において、定植1か月後にジベレリン100ppm処理を行うと株の生育が促進され、越冬芽が増加する。			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868-57-2758

## [背景・ねらい]

リンドウは株養成期間が長く、従来の栽培では本格的な切り花までに2年を要する。早期成園化方法の一つとして定植直前の苗へのジベレリン処理による生育促進があり、東日本の主要産地で普及しているが、本県では安定した効果が得られていない。そこで、本県に適した処理方法を明らかにする。

## [成果の内容・特徴]

1. ジベレリンの100ppm処理によって処理直後から抽台が始まった（図1、2）
2. 抽台率は定植5週後処理の方が定植1週後処理に比べて高い傾向が見られた（表1）。
2. 抽台したシュート数は、早生系と中生系では定植5週後処理の方が定植1週後処理に比べて多かった（表1）。
3. ジベレリン処理によって株の生存率が高くなり、定植5週後処理の方が定植1週後処理に比べて高かった（表1）。
4. ジベレリン処理によって越冬芽数が増加し、早生系と中生系では定植5週後処理の方が定植1週後処理に比べて多かった（表1）。

これらのことから、定植1か月後にジベレリン100ppm処理を行うと、株の生育が促進され、株が枯れにくくなり、越冬芽が増加する。

## [成果の活用面・留意点]

1. 本技術は慣行の6月上旬定植におけるデータである。早期定植については現在試験中。
2. ジベレリンのリンドウにおける登録は定植前の苗に限定されており、現在、登録拡大に向けて検討中である。このため、当面は現場での使用を避ける。

[具体的データ]

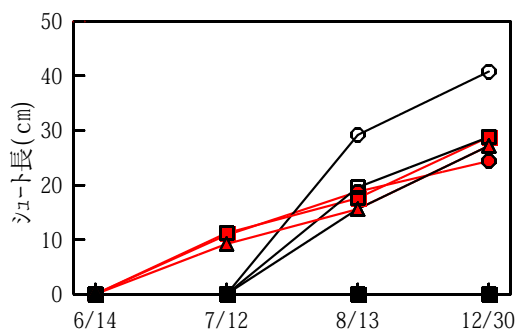


図1 最長シュート長の推移

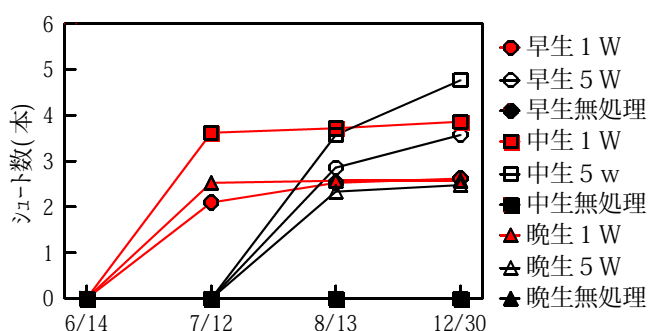


図2 シュート数の推移

- a) 定植日 平成14年6月7日  
 b) シェパレリン処理 定植1週後（6月14日）、定植5週後（7月12日）  
 c) 供試品種 早生：96、中生：Nミ17、晩生：Oミ7

表1 12月末の生育と開花期

系統	処理時期	処理時の苗	最長シュート	シュート数	越冬芽数	抽台率	生存株率	開花期
		cm	cm	本	個	%	%	
早生	1 週後	4.5	24.6	2.6	2.9	100.0	84.6	9月中旬
	5 週後	7.2	40.9	3.6	3.6	100.0	97.4	10月上旬
	無処理	—	—	—	2.7	0.0	53.8	—
中生	1 週後	4.3	29.1	3.6	6.0	97.1	89.7	11月上旬
	5 週後	4.7	28.9	4.8	8.4	100.0	92.3	12月中旬
	無処理	—	—	—	2.4	0.0	48.7	—
晩生	1 週後	4.3	27.4	2.6	5.5	75.0	92.3	10月下旬
	5 週後	5.2	27.2	2.5	5.1	97.4	100.0	12月上旬
	無処理	—	—	—	3.3	3.7	69.2	—

- a) 処理時の苗：苗の正射径  
 b) 抽台率：（最長シュートが10cm以上の株数／生存株数）\*100

[その他]

試験研究課題事業名：中山間地域におけるリンドウ F1品種の育成と出荷期拡大技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成14年～19年

関連情報等：なし

